

12月 園だより

令和3年11月26日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育 12月のねらい」

にんにくじきゅう
忍辱持久

「コロナ対策から得られるもの」

園長 佐藤 和順

早いもので今年のカレンダーも残り一枚となりました。いろいろなことがありましたが、今年も新型コロナウイルスに振り回された年といってもよいでしょう。年間を通して、保護者の皆さまには、園児の健康管理に特別な配慮をいただき、園生活のあり方、行事の取り組みについても多大なる理解と支援をいただいていること、感謝しております。この状況がいつまで続くかはわかりませんが、必ず良い方向になると信じ、今年最後の月を元気に過ごしていきたいと思えます。

今月の保育の目標は「忍辱持久(にんにくじきゅう)逃げ出さず試練に立ち向かう」です。「忍辱」とは、忍耐すること、辛抱すること。「持久」とは、長い時間持ちこたえること、目的に向かって心を合わせ努力することです。私たちは生きている間に大なり小なり辛いことや苦しいことに出会います。そのような困難から逃げ出さず、自分に与えられた試練と受け止めて努力を重ねたなら、心は確実に鍛えられ、向上するに違いありません。また、決して諦めず、目標に向かって努力を重ねていくことは、人間的に大きく成長する機会ともなることを理解しておきましょう。

「忍辱持久」は、まさにこの時代に必要な力かもしれません。コロナ対策として、園でも登降園方法の変更、手指消毒、昼食の取り方、人数制限及び活動制限など、いろいろな制限のある中で日常生活を送っています。当初はどこまでこのような制限に園児が対応できるか、不安に思う一面もありました。しかし、今では先生が驚くほど子どもたちは制限のある生活に順応しています。

コロナ対策に限らず、園の集団生活では、自分の思うとおりにいかないことや我慢しなければならないことが頻繁にあります。遊具の使い方、時間の過ごし方など、家庭と同じようにすべてが自分の思い通りにはいきません。その際には場面に応じて、我慢すること、時にはしんどくても最後までやりきることを伝えていきます。小学校に進学、さらに大人へと成長していく過程では、いろいろな困難に立ち向かわなければいけない時が必ず訪れます。友だち関係、親子関係で悩み、勉強や部活動で苦しい思いすることもあるかもしれません。困難に直面した際に、あきらめて放り出してしまえばそこで終わりです。まずは、状況に耐えて、その間に次の成長に備えることが大切です。困難に耐え、自分で考え、悩み、それに打ち勝つ努力を重ねることで、内面が鍛えられ本当の意味での成長になるのだと思います。

忍耐の先には必ず喜びが待っていると信じ、日々忍辱持久に努めたいものです。

